

災害対応マニュアル



聖カタリナ大学
(松山市駅キャンパス)

本学の災害対応マニュアル

この災害対応マニュアルは、本学が所在する愛媛県松山市を中心に、発生が予測される大地震、風水害（台風・豪雨等）、火災を想定して作成しています。

愛媛県地震被害想定調査最終報告（2013年※¹）によれば、愛媛県で発生が予測されている南海トラフ巨大地震では、最大で震度9クラスの強い揺れが想定されており、甚大な被害が見込まれています。

いつ、どのような災害が起きても被害を最小限に抑えるためには、まず“自分がいる場所”で起こりうる災害について知ること（ハザードマップの確認）、災害に関する情報への感度を高めること、そして早めの避難を心がけることが重要です。

“自分の身は自分で守る”という「自助」の意識を常に持ち、日頃から災害への備えをしておきましょう。

さらに、教職員と学生が一丸となって被害の拡大を防ぎ、災害からの復旧に取り組む「共助」、大学当局や行政・地域との連携による「公助」も不可欠です。

そのため、平常時から本マニュアルに基づいて組織体制や機能の点検、訓練を重ね、災害に強い大学（キャンパス）づくりを進めていきましょう。

まずは本マニュアルを一読いただき、防災・減災への意識を高めてください。

災害時の大学への連絡番号

【平日】 089-947-0502

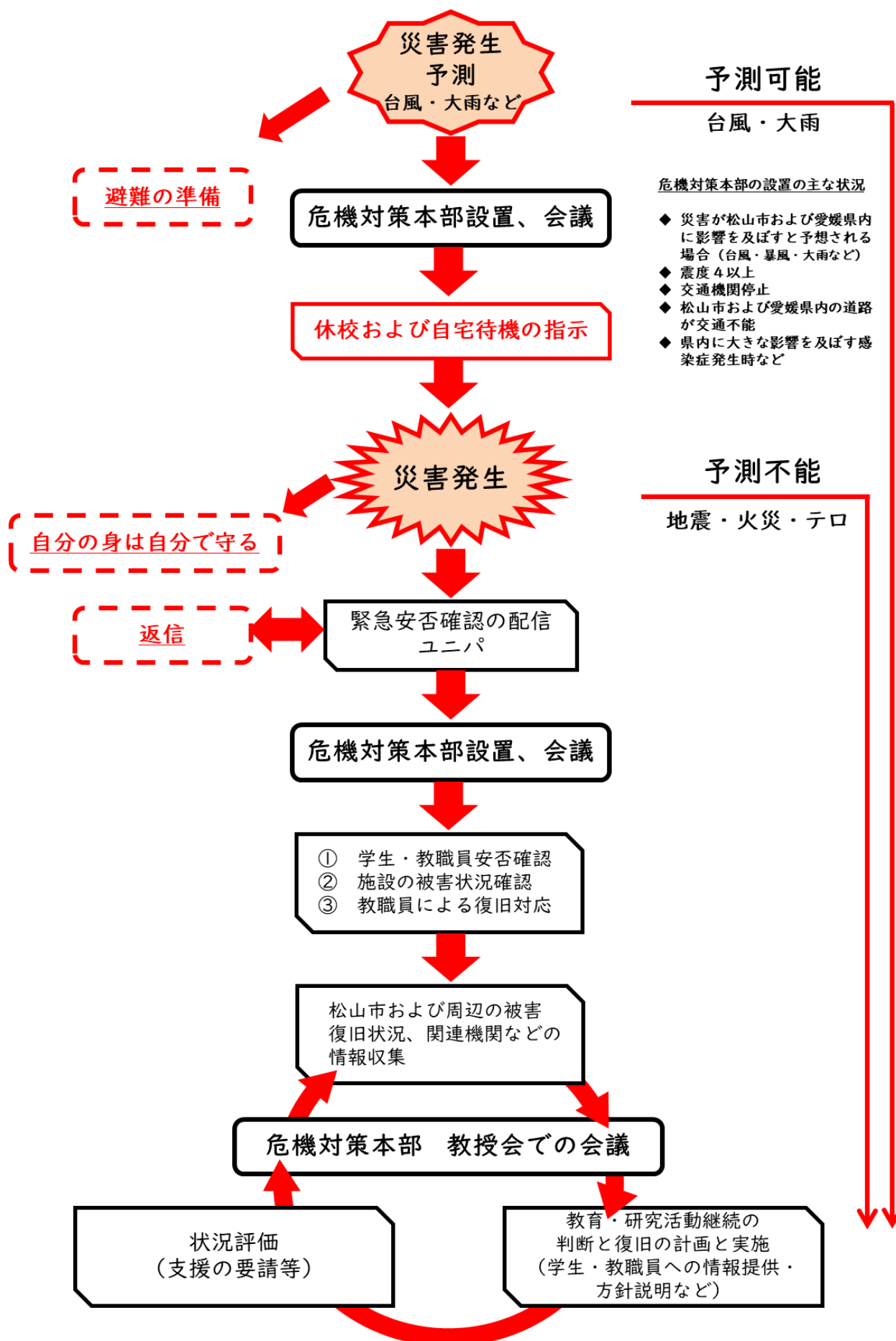
【夜間と休日】 089-909-3710

目次

I. 災害時における大学危機管理フロー	5
II. 災害発生時の対応	6
A. 災害が発生した場合	6
1. 組織としての対応	6
2. 行動の原則	10
3. 避難時の注意	11
4. 大学内にいる場合	12
5. 移動中の場合	12
6. 帰宅困難の場合	12
7. 帰宅できる場合	12
8. 大学に残る場合	13
B. 災害が予測される場合	13
1. 災害が事前に予測される場合	13
2. 特別警報が発表された場合	13
C. 災害への備え	14
1. 災害を知る（ハザードマップ）	14
2. 備蓄をする	15
3. 連絡手段を確認・準備する	15
D. 災害の予測・発生時の授業や実習	15
1. 授業や実習の休講・中止・再開についての通知	15
2. 実習中に災害が発生した場合の対応	15
3. 実習移動中に災害が発生した場合の対応	16
4. 実習中の災害への備え	17
III. 災害別の対応	18
A. 大地震	18
1. 共通事項	18
2. 学内で地震に遭遇した場合	19
3. 学外で地震に遭遇した場合	20

4. 地震への備え	21
B. 風水害	22
1. 風水害への備え	22
2. 風水害発生時の対応	23
C. 火災	23
1. 火災報知機が鳴ったら	23
2. 火災発生を発見したら	23
3. 避難後は	23
D. テロ	24
1. テロ発生時の3つの基本行動	24
2. テロ発生時の対応	24
3. テロへの備え	25
資料1 情報収集の方法	26
1. 地域防災情報	26
2. 交通情報（運行情報）	26
3. 防災に関する情報	26
a. 愛媛県自主防災組織活動マニュアル https://www.pref.ehime.jp/page/18050.html	26
b. 愛媛県防災対策基本条例ガイド	26
資料2 災害伝言ダイヤル（171）の基本的操作（NTT 西日本 HP）	27
資料3 警戒レベル（気象庁 HP） https://www.jma.go.jp/	28
資料4 避難指示（内閣府 HP）	29
資料5 震度とゆれの状況（気象庁 HP）	30
資料6 消火器の使用方法（東京消防庁 HP）	31

I.災害時における大学危機管理フロー



Ⅱ．災害発生時の対応

A．災害が発生した場合

Ⅰ．組織としての対応

Ⅰ．危機対策本部の設置（北条キャンパス）

学長は、次の①から④のいずれかに該当する場合は、北条キャンパスに危機対策本部を設置するとともに、松山市駅キャンパスに災害対策本部設置を指示し、全学的な体制で緊急対応に当たるものとする。

- ① 松山市に震度5強以上の地震が発生した場合
- ② 大雨や暴風により本学施設及び周辺地域に被害が発生するおそれがある場合
- ③ 本学施設内で火災・爆発が発生した場合
- ④ その他本学の学生・教職員の生命・身体の安全や、本学の運営に甚大な影響を及ぼす災害等が発生した場合、または発生する恐れがある場合

Ⅱ．災害対策本部の設置（松山市駅キャンパス）

学長の災害対策本部設置の指示を受け、「聖カトリナ大学松山市駅キャンパス自衛消防隊編成表」に基づき、災害対策本部（以下「本部」という）を設置する。本部には、災害対策班（以下「各班」という）を設けて災害対策活動にあたり、危機管理対策本部（北条キャンパス）と報告・連絡・相談しながら方針決定し、一日も早い復旧と教育研究活動の再開を図る。

（Ⅰ）本部組織

本部長 ：副学長
副本部長 ：看護学部長
災害対策班：各班班長、班員

（Ⅱ）役割

- ◇本部及び各班の運営
- ◇学生・教職員等の安全確保の方針決定
- ◇帰宅が可能な学生の帰宅決定及び大学に留まる学生の把握
- ◇避難所の運営方針決定
- ◇教育研究活動（授業等）の再開方針決定
- ◇関係機関（文科省・愛媛県・松山市・消防・警察等）との連携
- ◇その他、必要事項の方針決定及び実施

（Ⅲ）本部設置場所

松山市駅キャンパス事務部局内

(4) 休日・夜間時等の対応

休日・夜間時に災害が発生または警戒宣言等が発令された場合、災害対策班員は、家族等の安全を確保したうえで、可能な限り松山市駅キャンパスに参集する。松山市駅キャンパスに参集することが不可能な場合には、北条キャンパスに参集する。

(できるだけ自身の飲料水・食料等を持参する)

キャネットを活用して、安否報告、参集可能の情報を送信する。状況に応じて、松山市駅キャンパス緊急連絡網を活用する。

(5) 災害対策班・役割

◇各班に班長を置き、原則として本部長の指示・命令により行動する。

◇緊急の場合は班長の指示または班員の判断による。

◇各班は本部への報告・連絡を密にする。

a 指揮班

- ① 本部長・副本部長の補佐
- ② 災害対策本部の設置
- ③ 消防への情報提供
- ④ その他指揮統制上必要な事項

b 通報連絡班

- ① 本部からの指示伝達、関係機関（消防等）へ連絡等（緊急連絡一覧表による）
- ② 構内緊急放送（一斉放送・拡声器・ホイッスル）
- ③ 本部設置運営・被害状況の把握
- ④ 本部と各班との連絡・情報収集及び本部への被害状況報告
- ⑤ 学外からの情報収集及び対外窓口（保護者・マスコミ・その他の対応及び関係機関との連携・各種要請）
- ⑥ 本学ホームページ防火・防災の取り組みへ情報報告掲載

c 消火班

- ① 火災発生の場合、出火階へ直行し、消火作業に従事
- ② 消防隊との連携及び補佐

d 避難誘導班

- ① 出火階並びに上層階に直行し、避難開始の指示命令の伝達
- ② 非常口の開放並びに開放の確認
- ③ 避難上障害となる物品等の除去
- ④ 学生を安全な場所へ避難誘導（避難器具の使用の場合あり）
- ⑤ 負傷者等を避難場所や安全な場所へ搬送
- ⑥ 避難者名簿の作成
- ⑦ 避難状況の確認及び本部への報告
- ⑧ ロープ等による警戒区域の設定

e 安全防護班

- ① 火災発生場所へ直行し、防火シャッター、防火戸、防火ダンパー等の封鎖確認
- ② 非常電源の確保、危険物施設の運転停止
- ③ 危険物、ガス、火気使用設備等に対する応急防護措置
- ④ エレベーターの非常時の措置
- ⑤ 教室に残留者がいないか確認、いた場合は直ちに救護・連絡
- ⑥ 危険箇所の把握・報告
- ⑦ ロッカー等の転倒及び窓ガラス落下防止・阻止
- ⑧ 火災発生の防止

f 救護班

- ① 応急救護所の設置
- ② 救急・救護資材の確保
- ③ 負傷者の応急処置
- ④ 救急隊との連携、情報の提供

聖カタリナ大学松山市駅キャンパス自衛消防隊編成表

自衛消防隊長 副 学 長 (自衛消防隊に対する指揮、命令、監督等を行う)	
自衛消防隊副隊長 看護学部長 (隊長を補佐し、隊長が不在時は任務を代行する)	
自衛消防隊副隊長 事務部局長 (隊長を補佐し、隊長が不在時は任務を代行する)	
隊 の 編 成	任 務
指 揮 班	1 隊長、副隊長の補佐 2 自衛消防本部の設置 3 消防隊への情報の提供並びに災害現場への誘導 4 その他指揮統制上必要な事項
通 報 連 絡 班	1 消防機関への通報並びに通報の確認 2 館内への非常通報並びに指示命令の伝達 3 関係者への連絡（緊急連絡一覧表による。）
消 火 班	1 出火階に直行し、消火作業に従事 2 消防隊との連携及び補佐
避 難 誘 導 班	1 出火階並びに上層階に直行し、避難開始の指示命令の伝達 2 非常口の開放並びに開放の確認 3 避難上障害となる物品の除去 4 逃げ遅れの確認及び本部への報告 5 ロープ等による警戒区域の設定
安 全 防 護 班	1 火災発生地区へ直行し、防火シャッター、防火戸、防火ダンパー等の閉鎖 2 非常電源の確保、危険物施設の運転停止 3 エレベーターの非常時の措置
救 護 班	1 応急救護所の設置 2 負傷者の応急処置 3 救急隊との連携、情報の提供

災害発生時の行動

1. 安全確保

- ① 窓の側から離れる
- ② 落下物の側から離れる
- ③ 扉を開ける

2. 被災状況の確認

- ① けが人・建物の状況確認
※夜間・休日：図書館・院生室も注意
- ② 避難準備
 - ・避難経路の確認
 - ・携帯電話・貴重品
 - ・口を覆うマスクやハンカチ
- ③ 情報確認

3. 避難

速やかに避難を開始
避難場所で状況報告



3. 避難時の注意

◇避難時の「お」「か」「し」「も」

「お」・・・おさない

「か」・・・かけない

「し」・・・しゃべらない

「も」・・・もどらない

◇市駅キャンパスの避難場所はセンタースクエアとする。

◇あわてず、さわがず、落ち着いて行動する。

◇非常放送が入った場合には、静かに聞く。

◇姿勢を低くして、ぬれたハンカチやタオルを口と鼻に当て、煙を吸わないようにする。

◇非常持出物品を持って避難する。

◇エレベーターは使用せず近くの階段から避難する。

◇施設に不慣れな来客者や障害者の方などの避難を支援する。

◇火災が発生している場合は、姿勢を低くして、ぬれたハンカチやタオルを口と鼻に当て、煙を吸わないようにする。

◇延焼を少しでも抑えるためにドア及び窓は閉め、鍵はかけないようにする。

（＊注：地震のときはドアが変形して開かなくなることがあるので、開放して避難する。）

◇いったん避難したら再び中には戻らないようにする。

a. 安否の連絡

（1）大学への連絡

身の安全が確保できた後、以下の方法で安否に関する連絡をする。

- ① 学内一時避難場所で教職員に直接報告をする。
- ② 大学からの安否確認（ユニパ）に速やかに返信をする。
- ③ ①②以外で利用可能な通信手段（電話やメールなど）を用いて
松山市駅キャンパスの事務室に報告する。

電話回線の混雑時は災害伝言ダイヤル（171）を活用する。

（2）家族への連絡

◇予め家族で決めた連絡方法を用いる。

（LINE、SNS、メール、電話など）

◇NTTの災害用伝言ダイヤル、携帯電話各社の災害用伝言板を活用する。

b. 災害情報の確認

◇災害の程度、被害状況、交通機関の運行状況などを確認しましょう。

◇情報収集する。（情報収集源は、p.26を参考）

大学からの安否確認(例)

災害発生時、大学より皆さんのユニパに安否確認の回答依頼をします。
安全を確保後、スマートフォンもしくはパソコンから速やかに回答をしてください。

安否確認依頼

災害発生：2018/03/13(火) 14:30
発出先：学友会事務局

地震発生に伴う安否確認依頼です

先ほど発生した地震に関する安否確認メールです。
お名前、お電話番号の登録をお願いします。

お名前はありますか？

姓
名
姓

ご家族で登録された方はいませんか？

選択してください

同じ通話履歴がありましたらご記入してください。

ご協力ありがとうございます。

一時保存 送信

(スマートフォン版のサンプル画面)

4. 大学内にいる場合

- ◇身の安全を確保して、非常放送があった場合は、指示に従う。
- ◇行動の原則に基づき、自身で安全かどうか確認・判断し行動する。
- ◇周囲の人と声を掛け合い相談しあう。

5. 移動中の場合

災害により交通機能が停止した場合は、むやみに移動せず安全な場所に留まることを原則とする。

- ◇交通機関の運行状況などの確認をする。
- ◇電車やバスに乗車中の場合は、交通機関の責任者の指示のもと行動する。
- ◇安全な場所に留まる。
- ◇安全を確認したら、最寄りの一時避難場所（公園や学校）、自宅、大学に行く。

6. 帰宅困難の場合

災害時は「むやみに移動・帰宅をしない」で、安全な場所に留まることが原則である。多数の帰宅困難者が一斉に移動すると大渋滞が発生し救急車両の妨げや、余震、転倒による二次災害の恐れがある。

- ◇帰宅が難しい時は、大学や最寄りの一時滞在施設に向かう。

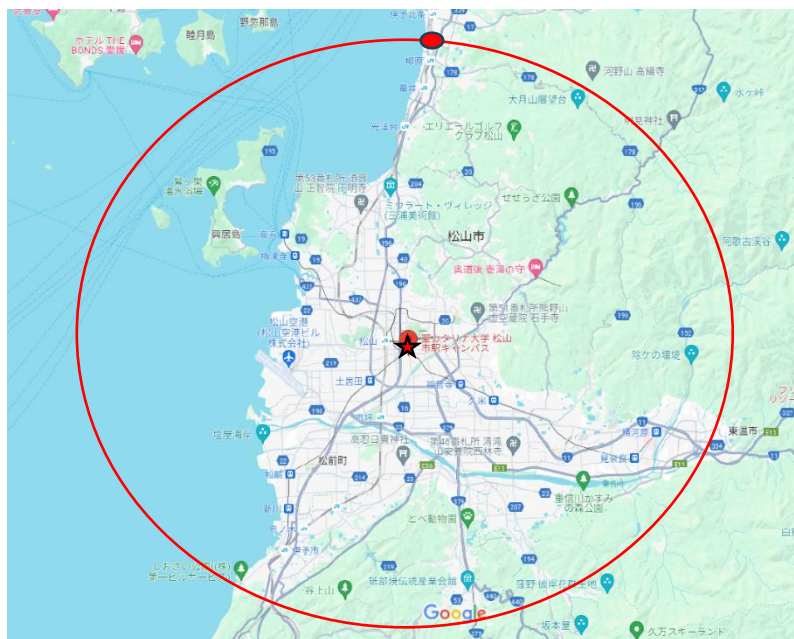
7. 帰宅できる場合

- ◇自宅までの交通機関が運行していれば、必ず大学に報告して帰宅する。
- ◇徒歩帰宅の目安は 20km 以内で、松山市駅キャンパスから 20km 以内は下図のとおりである。

松山市駅キャンパス★から北条キャンパス●まで約 20 k m

- ◇帰宅時注意事項

帰宅時は、できる限り同じ方向の 2 人以上で行動する。



8. 大学に残る場合

- ◇交通機関が停止する、帰宅が深夜になるなど、帰宅困難となった場合は、学内に滞在する。
- ◇建物内への移動、宿泊場所などについては教職員の指示に従う。
- ◇断水時は、トイレの使用は禁止し、汚物処理パック等を使用する（汚物処理パックがなくなつた時はビニール袋などの代用品を使用する）。
- ◇体調が悪くなった場合は、学内救護所に連絡する。
- ◇大学施設を使用できない場合、自治体の避難所に避難する。
- ◇家族との安否確認は、伝言ダイヤルサービス、伝言板サービスを利用して自分自身で行うこと。

B. 災害が予測される場合

1. 災害が事前に予測される場合

天気予報などで災害が予測されたり、大事故等により身に危険が及ぶことが予測される場合は、自身の居住地域や行動範囲の被害予測やその事象について情報を得て、予防行動をとることが大切である。

- ◇災害への心構えを高め、準備を始める。
- ◇ハザードマップなどに自宅等の災害リスクを再確認する。
- ◇避難の準備や身を守る備えについて確認する。

2. 特別警報が発表された場合

特別警報は、発表された地域において、これまでに経験したことのないような重大な危険が差し迫った異常な状況であり、この数十年間災害の経験が無い地域でも油断してはいけないことを示している。

- ◇大雨の場合は、土砂崩れや浸水による何らかの災害がすでに発生している可能性が極めて高く、警戒レベル5に相当する状況である。命を守るための対応に最善を尽くす。
- ◇津波の場合は、内陸まで影響が及ぶ大津波のおそれ大きい状況であり、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難する。
- ◇地震（地震動）の場合は、震度6弱以上の緊急地震速報が特別警報に相当する。周囲の状況に応じて、身の安全を確保する。

C. 災害への備え

1. 災害を知る（ハザードマップ）

◇生活・行動圏（自宅・大学・実習場所など）において起こりうる災害の情報を得る。

ハザードマップの見方

災害別に表示

ハザードマップは3種類あり、【赤色】…土砂・ため池、【青色】…洪水・内水、【緑色】…津波・高潮を表示しています。洪水・内水氾濫の被害想定がされていない地域や津波・高潮の危険性がない地域は、【青色】や【緑色】のマップはありません。



各災害の想定条件

土砂災害（土砂災害警戒区域／土砂災害特別警戒区域）

土砂災害防止法に基づき、愛媛県が指定している警戒区域を、土砂災害の種類ごとの範囲を示しています。「土砂災害警戒区域（イエローゾーン）」は、急傾斜地の崩壊などが発生した場合に、住民等の生命や身体に危険があると認められる区域で、「土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）」は、建物に損壊が生じ、住民等の生命や身体に著しい危険があると認められる区域です。

ため池氾濫（防災重点ため池／ため池浸水想定区域）

299箇所の防災重点ため池が、満水時に決壊した場合などを想定して作成した浸水想定区域を重ね合わせ、その範囲と最大浸水深を示しています。

※ため池ごとの浸水深は、「ため池ハザードマップ」をご覧ください。

河川洪水（洪水浸水想定区域／最大浸水深）

水防法に基づき、河川管理者が公表している想定最大規模降雨（1000年に1回程度）の洪水浸水想定区域を重ね合わせ、その範囲と最大浸水深を示しています。

【凡例説明】家屋倒壊等氾濫想定区域

想定最大規模降雨により、付近の堤防が決壊した場合に、一般的な建築物が倒壊・流出する等の危険性が高い区域を示します。氾濫流によるものと河岸侵食によるものがあります。

- ・家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）…洪水氾濫流により、木造家屋が流出・倒壊するおそれがある範囲
- ・家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）…洪水時の河岸侵食により、家屋が流出・倒壊するおそれがある範囲

※河川ごとの詳しい浸水深・浸水継続時間は、「まつやま洪水ハザードマップ」をご覧ください。

河川名	重信川	石手川	小野川	立岩川
河川管理者	国	国・愛媛県	愛媛県	愛媛県
想定している24時間総雨量	626mm	705mm	754mm	769mm

内水氾濫（内水浸水想定区域／最大浸水深）

総雨量299mm、時間最大雨量83.5mmの大雨を想定して作成している内水氾濫浸水想定区域の範囲と最大浸水深を示しています。

※詳しい浸水深は、「まつやま内水ハザードマップ」をご覧ください。

津波災害（津波災害警戒区域／最大浸水深（基準水位））

津波防災地域づくりに関する法律に基づき、愛媛県が指定している津波災害警戒区域の範囲と基準水位を示しています。

高潮災害（高潮浸水想定区域）

水防法に基づき、愛媛県が公表している想定し得る最大規模の高潮による浸水想定区域の範囲を示しています。

※詳しい浸水深・浸水継続時間は、「まつやま高潮ハザードマップ」をご覧ください。

●既往最大の台風を想定

- ・中心気圧 900hPa（室戸台風相当）
- ・半径、移動速度 最大旋回風速半径75km[※]（伊勢湾台風相当）
移動速度75km/h（伊勢湾台風相当）

※最大旋回風速半径とは、台風の中心から台風の周辺で速度が最大となる地点までの距離

⚠ それぞれ、現在の知見を基に設定していますが、想定以上の災害が発生する可能性もあります。

ハザードマップの作成にあたって使用した地図データは、国土地理院発行の数値地図（国土基本情報）の最新データですが、経年変化によって現状と一致しない箇所が発生しておりますのでご了承ください。土砂災害などのハザード情報については、あくまでおおよその位置を確認する参考図であり、警戒区域等の境界や範囲などを明示するものではありません。また、避難所などの防災情報は令和4年1月現在のもの、今後変更になる可能性がありますのでご注意ください。本誌の表紙、啓発記事及び地図については松山市の承諾なしに複写、転載することをご遠慮ください。

Check!

Web版防災マップで確認

松山市防災ポータルには、Web版の防災マップを掲載しています。災害の危険性をより詳しく確認することができます。

①「松山市防災ポータル」にアクセス

松山市防災ポータル

検索



②「松山市Web版防災マップ」をクリック

③確認したい災害リスクを選択



松山市ハザードマップの見方

<https://www.city.matsuyama.ehime.jp/kurashi/bosai/bousai/keihatu/bousaimap.files>

2. 備蓄をする

◇ 飲料水、非常食（菓子類など）、常備薬、洗面・排泄に関する日用品を準備する。

日頃の準備	日頃から準備・携帯しておく便利な物
大地震の発生を防ぐことはできなくても、適切な準備を行うことで被害を軽減することができます。どんな備えが必要か考えておきましょう。	<input type="checkbox"/> 現金（小銭も） <input type="checkbox"/> 健康保険証 <input type="checkbox"/> タオル・ばんそうこう・包帯 <input type="checkbox"/> 手回し充電ラジオ・ライト <input type="checkbox"/> ティッシュ・ウエットティッシュ <input type="checkbox"/> 非常用保温アルミシート <input type="checkbox"/> チョコレート・あめなど <input type="checkbox"/> 常備薬
<input checked="" type="checkbox"/> 避難場所の確認 （大学付近および自宅周辺等） <input checked="" type="checkbox"/> 家族との連絡方法および待ち合わせ場所の確認 <input checked="" type="checkbox"/> 災害伝言サービスの確認と登録 （メール宛先等の事前登録が必要） <input checked="" type="checkbox"/> 帰宅ルートおよび所要時間の確認 （災害時徒歩約2.5km/h） <input checked="" type="checkbox"/> 緊急時メモの作成・記入 <input checked="" type="checkbox"/> 具体的な情報収集手段および緊急避難場所等の確認 （大学および通学途中） <input checked="" type="checkbox"/> 転倒防止対策や緊急時アイテムの確認 <input checked="" type="checkbox"/> 大学および友人等への連絡方法の確認およびリスト整備	<input type="checkbox"/> 学生証（免許証なども） <input type="checkbox"/> アドレス帳 （家族、友人の連絡先を記入） <input type="checkbox"/> 雨具（カッパなど） <input type="checkbox"/> 乾電池式携帯充電器 <input type="checkbox"/> ポリエチレン製ゴミ袋 <input type="checkbox"/> 油性マジックペン <input type="checkbox"/> 生理用品
	その他非常時に必要なアイテム <input type="checkbox"/> 貯金通帳 <input type="checkbox"/> 常備薬とその処方箋 <input type="checkbox"/> 運動靴 <input type="checkbox"/> 卓上コンロ <input type="checkbox"/> ひも・ロープ <input type="checkbox"/> 予備電池 <input type="checkbox"/> スリッパ <input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ <input type="checkbox"/> 汗拭きシート
	<input type="checkbox"/> 印鑑 <input type="checkbox"/> 上着・下着・靴下 <input type="checkbox"/> リュック <input type="checkbox"/> 懐中電灯 <input type="checkbox"/> ろうそく <input type="checkbox"/> 缶切り・栓抜き <input type="checkbox"/> 洗面用具 <input type="checkbox"/> 非常用食料・水
	memo

3. 連絡手段を確認・準備する

◇ 家族、大学などへの連絡方法を確認し、それらの連絡先を携帯し、いつでも連絡できるようにしているか。

◇ 携帯電話の充電をしておく、あるいは充電ができるようなものを準備しておく。

◇ 実習施設内（または実習施設近辺）の公衆電話の場所を確認しておく。

D. 災害の予測・発生時の授業や実習

1. 授業や実習の休講・中止・再開についての通知

◇ 休講や授業再開などの情報は大学ホームページやユニパへの配信により通知する。

2. 実習中に災害が発生した場合の対応

実習施設内（病院、訪問ステーション、介護老人福祉施設など）にいる場合は、発災直後から状況が落ち着くまでは、施設の看護単位の責任者（看護師長、看護係長、実習担当者など）、担当教員と

相談のもと、上記「A.災害が発生した場合 1. 行動の原則 (p.10)」と同様に対応する。その他に、揺れがおさまった時には以下のように対応する。

(1) 安全確認

◇火災や負傷者がいる場合、スタッフに連絡する。

(2) 安否確認

◇スタッフステーションなどの管理部署に行き、施設責任者に（教員がいれば教員にも）自分の安否を報告する。

◇大学から緊急安否確認のメールが配信された場合は、身の安全が確保できた後に速やかに返信をする。

◇実習施設に指導教員が不在の場合は、携帯電話等で指導教員に連絡をする。

◇実習続行かどうかは、施設責任者もしくは指導教員に相談する。

(3) 避難

◇患者避難の必要がある場合、施設責任者もしくは指導教員と相談の上共に行う。

◇避難する必要がある場合は、施設責任者もしくは指導教員と相談し共に避難する。

(4) 避難場所

◇実習施設が指定している避難場所に避難する。

(5) 帰宅の可否

◇施設責任者もしくは指導教員から実習中止・終了の方針が出た場合は、帰宅可能かどうか判断し、教員に報告の上、安全な方法で帰宅する。

◇徒歩帰宅の目安は実習場所から自宅までが20km以内である。

◇一斉帰宅抑制の呼びかけなど帰宅できない場合は、施設責任者もしくは指導教員と相談し決定する。

◇実習施設が避難場所になった場合、施設責任者もしくは指導教員と相談の上、被災者などに対する救護活動に協力する。

◇訪問先で実習中の場合、実習続行の可否や避難について、指導者（教員または保健師・訪問看護師）と相談し決定する。

3. 実習先への移動中に災害が発生した場合の対応

◇実習施設（病院、訪問ステーションや訪問先、介護老人福祉施設、など）からの移動中で災害が発生した場合も、上記「行動の原則 (p.10)」と同様に対応しましょう。

◇安全が確保された後、速やかに実習指導教員に（必要時は実習施設責任者にも）指定の連絡方法で連絡をしましょう。

4. 実習中の災害への備え

- ◇ 実習先での避難ルートや災害時の対応についてオリエンテーションを受け把握しておく（避難ルート、消火器・消火栓・患者の避難方法など）。
- ◇ 実習施設が位置する地域のハザードマップを、実習前に確認しておく。
- ◇ 実習施設内（または実習施設近辺）の公衆電話の場所を確認しておく。
- ◇ 自宅から実習施設までの交通機関や移動ルートにおける避難経路などを意識して確認する。

Ⅲ. 災害別の対応

A. 大地震

Ⅰ. 共通事項

a. 地震発生時の安全確保

- ◇頭を守る（机の下などに入る、バッグや手で頭を覆う）。
- ◇転倒・転落物から離れる（本棚や窓、頭上のプロジェクターなど）。
- ◇出口を確保する（ドア開ける）。
- ◇揺れがおさまるのを待つ（安全を確保して、揺れがおさまるのを待つ）。

b. 揺れがおさまった時の対応

揺れがおさまったら、建物は安全か、火災は起きていないか、周囲に負傷者がいないかなどを確認し、周囲の人と協力しながら以下の対応を行う。

- ◇冷静に、落ち着く（余震の可能性もあるので、あわてずにしばらく様子を見る）。
- ◇周囲の状況を確認（周囲の物が倒れたり、落下してくる恐れがない場合は、その場で待つ。
危険と判断した場合は、安全な所へ移動する）。
- ◇負傷者の救護（負傷者がいる場合は、自分の身が安全な範囲で、周囲の協力を得ながら応急手当をし、教職員に連絡する）

c. 避難が必要な時の対応

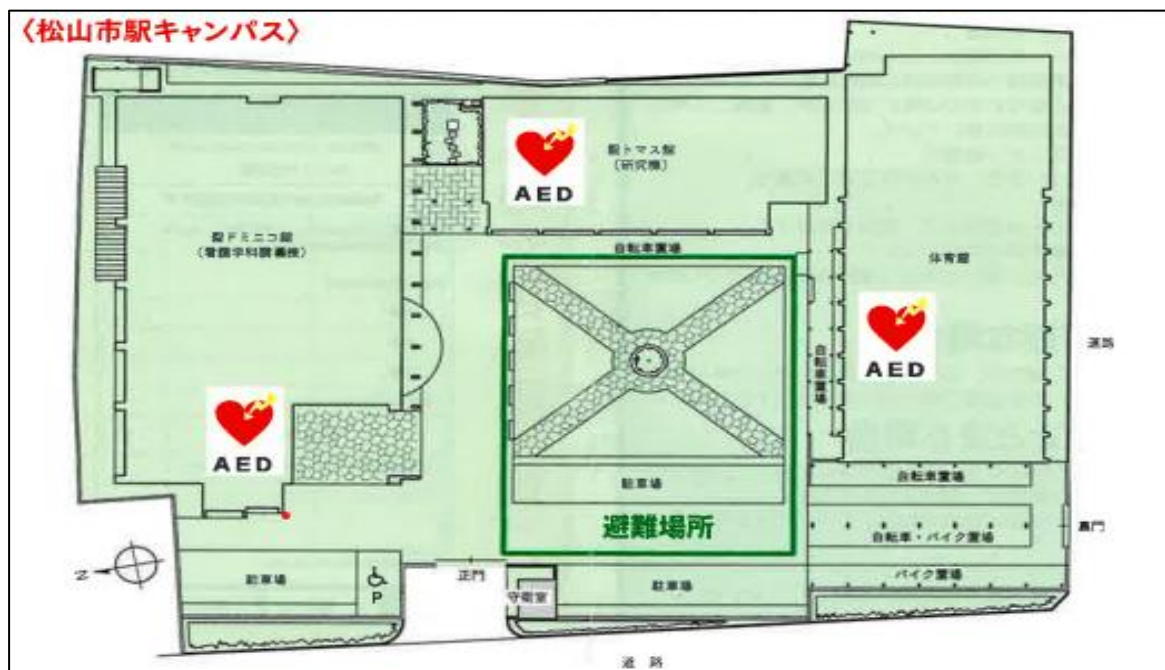
建物の状況を確認して安全が確認できないと判断した時は、以下に注意しながら安全な場所（大学にいる場合は学内一時避難場所）への避難を開始する。

- ◇「おかしも」を守る（「おさない、かけない、しゃべらない、もどらない」を守り、教職員や非常放送の指示に従って落ち着いて避難。身の回りのものは身につけるが、避難に支障が出る大きな荷物は置いていく）。
- ◇火災が発生している場合（煙を吸わないよう、タオルなどで口と鼻を覆、身を低くして移動する）。
- ◇階段で移動（エレベーターは使用せず、階段で移動する）。
- ◇避難途中でケガなどをした場合は、声を出して存在を周囲に伝える。
- ◇負傷者がいる場合は、自分の身の安全を確保した上で、周囲の人とともに負傷者への介助をしながら避難する、または助けを呼ぶ。

2. 学内で地震に遭遇の場合

a. 大学では、以下の場所が避難場所である。

学内で地震に遭遇した場合の一時（いっとき）避難場所



b. 聖カタリナ大学 松山市駅キャンパスは、(地区名) 雄郡地区、(エリア) 中心部にあたる。大学内の一時避難場所から、次にどこへ避難するかは、被災状況により安全な場所を判断する。

指定避難所（指定一般避難所）一覧

令和5年6月6日現在

NO	地区名	施設名	住所	地震	津波	高潮	洪水	土砂
20	雄郡	雄郡公民館	松山市小栗3-5-24	○	○	○	△	○
21	雄郡	雄郡小学校	松山市土橋町1	○	○	○	△	○
22	雄郡	双葉小学校	松山市土居田町123-3	○	○	○	△	○
23	雄郡	たちばな小学校	松山市針田町209-1	○	○	○	△	○
24	雄郡	城西中学校	松山市竹原3-19-35	○	○	○	△	○
25	雄郡	雄新中学校	松山市土居田町1	○	○	○	△	○
26	雄郡	まつやまRe・再来館	松山市空港通1-1-32	○	○	○	○	○
27	雄郡	松山工業高等学校（体育館）	松山市真砂町1	○	○	○	×	○
28	雄郡	松山南高等学校（体育館）	松山市末広町11-1	○	○	○	×	○
29	雄郡	聖カタリナ学園高等学校（体育館）	松山市永代町10-1	○	○	○	×	○
30	雄郡	聖カタリナ学園高等学校（講堂兼体育館）	松山市藤原町468	○	○	○	×	○

c. 学内一時避難場所到着後速やかに整列し、人数を確認して教職員に報告する（授業日の場合は、学年・クラスごと）。教職員は、本部（または事務室）へ報告する。

d. 余震がおさまった時、被災状況や一斉帰宅抑制の呼びかけの有無、自宅までの交通機関の運行状況により、帰宅するか、大学に残るか判断する（帰宅できる場合、大学に残る場合についてはp.12-13を参照）

3. 学外で地震に遭遇した場合

α. 遭遇場所での対応

(1) 車の運転中

- ◇速度を落とし、交差点を避けて道路の左側に止めエンジンを切る。
- ◇車外に逃げる時、火災にまきこまれないよう窓を閉め、キーをつけたままにしておく。

(2) 電車やバスの中

- ◇つり革や手すりにつかまる。
- ◇途中で止まった場合、乗務員の指示のもと落ち着いて身の安全を守る行動をとる。

(3) 商店街・ビル街

- ◇落下物で怪我をしないよう、カバンなどで頭を保護して空地などに避難する。
- ◇ガラスの破片、看板、タイルなどの落下物に十分注意する。

(4) エレベーターの中

- ◇直ちに各階のボタンをすべて押し、停止した階で降りる。
- ◇万一、停電などで閉じ込められたら、非常用電話で救助を求める。

(5) 劇場・ホール

- ◇落下物で怪我をしないようイスの間にしゃがみ込み、カバンなどで頭を保護する。
- ◇あわてて出口に殺到せず、係員の誘導のもと外へ出る。

(6) スーパー・デパート

- ◇カバンなどで頭を保護しながらショーウィンドウから離れ、柱や壁ぎわに身を寄せる。
- ◇係員の誘導のもと、落ちついた行動をとる。

(7) 地下街

- ◇壁面の太い柱に身を寄せ、係員の指示に従う。
- ◇停電になった場合は、非常灯がつくまで落ちついた行動をとる。

(8) 住宅街

- ◇ブロック塀や門柱、自動販売機などの近くからすぐに離れる。
- ◇落下物の危険のないよう、広場のような安全な場所に避難する。

b. 揺れがおさまった後

- (1) 安全確認 その場所が安全か確認する（乗務員の係員の案内などに耳を傾ける）。
- (2) 避難 非常放送指示や自身の判断により避難を開始する。
- (3) 避難場所 近くの一時集合場所や広域避難場所に避難する（防災無線による放送などの案内に注意する）。

c. 余震がおさまった時

帰宅が可能であると判断した場合は、危険がないことを確認しながら帰宅する。

4. 地震への備え

いつ、どこで地震に遭遇するかわからないので、日ごろから以下について意識して準備する。

a. 大学内

- ◇各教室などから一時避難場所への避難ルートを把握しているか。
- ◇消火器の設置場所はどこか。
- ◇大学から自宅までの道中に地震が起きた時を想定した避難ルートはどこか。
- ◇家族との連絡方法は相談して決めているか。
- ◇非常用の飲料水と食料は備蓄（3日分程度）しているか。
- ◇季節に応じた冷暖への準備（携帯カイロ、タオルなど）を携帯しているか。
- ◇ハザードマップを確認しているか。
- ◇帰宅地図を作成しているか。

b. 自宅

- ◇自宅の耐震強度を把握しているか。
- ◇照明器具、棚、タンスなどの転倒防止対策を行っているか。
- ◇自宅付近の避難場所と避難ルートを把握しているか。
- ◇非常持ち出し物品の準備し、その内容を定期的に確認しているか。
- ◇貴重品を安全な場所に保管しているか。
- ◇非常用の飲料水と食料を備蓄（3日分程度）しているか。
- ◇家族との連絡方法を相談し決めているか。
- ◇自宅がある地域のハザードマップを把握しているか。
- ◇日ごろから近隣住民とのコミュニケーションをとっているか。

B. 風水害

大雨や台風から身を守るためには、情報の収集が大切である。台風や大雨は、いつ、どこで、どのくらいの強さで発生するか、ある程度予想することができ、気象庁から「防災気象情報」として発表されています。ラジオ、気象庁のホームページなどで最新の防災気象情報を収集するように心掛け、時間を追って段階的に発表される「注意報」や「警報」を活用して、早めに危険を回避し、身の安全が確保できる行動をとるようにする。

1. 風水害への備え

台風や大雨の備えとして、強い風や雨が始まる前にしておくべきことがある。日頃から次のような備えをしておく。

a. 災害を知る（ハザードマップ）

- ◇自分達の住んでいる地域の危険性（過去の浸水体験、低地かなど）を把握し、対策を立てることが大切である。
- ◇ハザードマップで、危険箇所や避難場所を確認しておく。
- ◇屋外設置物（瓦、アンテナ、雨樋、プロパンガス容器など）が、風で飛ばされないよう固定されているか確認しておく。

b. 災害気象情報の確認

- ◇テレビ、ラジオや防災無線などの気象情報から、大雨の状況や予報等の情報を得るとともに、時々周辺の降雨や増水状況を確認しておく。

c. 風水害への準備

- ◇懐中電灯、携帯ラジオ、救急薬品、衣類、非常用食品、飲料水などを点検・確保しておく。
- ◇家電・畳等・水にぬらしたくないものを上階へ移動しておく。
- ◇地下室がある場合は、浸水を防ぐために出入り口に止水板や土のうを置いておく。
- ◇避難指示が出た時にすぐ動けるような準備をする。
- ◇水の流れをスムーズにするために、側溝や排水路を掃除しておく。

2. 風水害発生時の対応

- ◇風水害時は、正確な情報を入手し、それをもとに行動するようにしましょう。
- ◇水害・土砂災害の防災情報を確認し、警戒レベルを基に適切な時期に避難しましょう。
災害対策基本法が2021年5月に改正され、避難情報に関するガイドラインが公表されました。
(資料3「警戒レベル」と資料4「避難指示」p.28-29 参照)

C. 火災

火災が発生した場合には、炎と煙に気をつける。炎は、壁やカーテンを伝って燃え広がる。煙は上昇する動きが人間に比べて極めて速い特徴をもつため、視界を遮り、避難の妨げやパニックを起こすことにつながる。また、煙には有毒物質（一酸化炭素やシアン化水素など）を含んでいるため、吸い込むと命にかかわることがある。

1. 火災報知機が鳴ったら

- ◇その建物および隣接する建物にいる人、または目視で危険と判断される場合は、教職員の指示のもと避難する。

2. 火災発生を発見したら

- ◇知らせる（大声で「火事」を知らせ、火災報知器を鳴らす！）
- ◇初期消火（天井に火が燃え移ったら初期消火はできない。すぐに避難する）。
- ◇避難（煙が発生したら、ハンカチ等を口と鼻にあて姿勢を低くして避難する）。
- ◇重傷者がいる場合は、119番通報し、救急車要請をする。

3. 避難後は

- ◇周りの友人の無事を確認（逃げ遅れた人・行方不明の人がいたら近くの教職員または消防隊員にすぐに知らせる）。
- ◇教職員の指示に従い、勝手な行動はとらない。

D. テロ

テロは人為的、作為的に引き起こされるものであり、発生する事態によって被害や影響範囲は千差万別であり予測することは容易ではない。日本においても、1974年三菱重工本社爆発事故や1994年と1995年にサリン事件、車両を突入させた秋葉原通り魔事件などが発生している。都市部やイベント、コンサートなど人流が多い場所は狙われやすいことを頭に置き、万が一に備え、日ごろから意識してテロ発生時の行動について考えておくことが重要である。

1. テロ発生時の3つの基本行動

- ◇伏せる ➡ 頭部を守り伏せたら、周囲を確認し次の行動を考える。
- ◇逃げる ➡ 逃げられないと判断したら「隠れる」。
- ◇隠れる ➡ 安全な場所に隠れ、侵入を防ぐ。

2. テロ発生時の対応

a. 不審物発見を発見した場合

- ◇おやみに近づかず警察や消防などに通報する。
- ◇逃げる。

b. 爆発音が鳴った場合

- ◇伏せる。
- ◇逃げる、頑丈な建物に隠れる。

c. 毒ガスなどによる体の異変を感じた場合

- ◇ハンカチなどで口や鼻を覆う。
- ◇屋外へ、風上の高台へ逃げる。
- ◇着ていた上着などを除染する。

d. 車両突入

- ◇車道から離れて頑丈な建物に隠れる。
- ◇遠くに逃げる。

◇コンテンツ『もしも今テロにあったら？』（東京都防災ホームページ）

<https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/taisaku/torikumi/1000063/1006175.html>

3. テロへの備え

a. 確認

- ◇自分を守るための基本行動を取れるよう普段の生活や通学をイメージする。
- ◇テロに関する情報入手先を事前に確認する。
- ◇通学経路の交通機関や公道・私道など、暴力や危害の恐れのある場所を確認しておく。
- ◇学内等の非常ボタン、消火器、非常ドアコック、防犯カメラの場所を確認しておく。
- ◇交番・警察署を確認しておく（そのほか、すぐに逃げ込める場所）。
- ◇駅構内などのテロ防止ポスターなど防災や避難に関する情報を確認しておく。

b. 日ごろの準備

- ◇テロは突然起こることを理解し、普段からハンカチやタオルを携帯する。
- ◇ヘッドフォン等での音楽や、スマートフォンへの集中による情報収集遅れのリスクを回避する。
- ◇履物や着衣（動きやすい恰好で。場合により電車の窓からの避難等できる恰好）。

c. 爆発物などの知識

- ◇爆発系は基本的に放射状から上方にかけ火と爆風が飛ぶので伏せる隠れる。
- ◇化学薬品の場合は風上側に距離をとる。
- ◇銃器類の場合も伏せる隠れる。

d. 訓練

- ◇警察からの防御訓練。
- ◇事務室のサスマタ使用訓練。

資料Ⅰ 情報収集の方法

1. 地域防災情報

- a. 松山市防災ポータル <https://city-matsuyama.my.salesforce-sites.com/>
- b. えひめの防災ポータル <https://www.pref.ehime.jp/site/bousai/>

2. 交通情報（運行情報）

- a. JR 四国 <https://www.jr-shikoku.co.jp/>
- b. 伊予鉄道 <https://www.iyotetsu.co.jp/>

3. 防災に関する情報

- a. 愛媛県自主防災組織活動マニュアル <https://www.pref.ehime.jp/page/18050.html>
- b. 愛媛県防災対策基本条例ガイド
<https://www.pref.ehime.jp/uploaded/attachment/96055.pdf>

- c. 松山総合防災マップ

<https://www.city.matsuyama.ehime.jp/kurashi/bosai/bousai/keihatu/bousaimap.html>

資料2 災害伝言ダイヤル（171）の基本的操作（NTT 西日本 HP）

地震・風水害・噴火などの災害の発生により、被災地への通信が増加し、つながりにくい状況になった場合に提供が開始される声の伝言板で、災害発生時に提供される。

【災害用伝言ダイヤル（171）の基本的操作方法】

「171」をダイヤルし、音声ガイダンスに従って伝言の録音、再生を行って下さい。

操 作 手 順		伝言の録音		伝言の再生	
①	171をダイヤル	171			
②	録音または再生を選ぶ。	[ガイダンス] こちらは災害用伝言ダイヤルセンタです。録音される方は1、再生される方は2、暗証番号を利用する録音は3、暗証番号を利用する再生は4をダイヤルして下さい。			
		(暗証番号なし)	(暗証番号あり)	(暗証番号なし)	(暗証番号あり)
		1	3	2	4
		[ガイダンス] 4桁の暗証番号をダイヤルして下さい。 XXXX		[ガイダンス] 4桁の暗証番号をダイヤルして下さい。 XXXX	
③	被災地の方の電話番号を入力する。	[ガイダンス] 被災地域の方はご自宅の電話番号を、または、連絡を取りたい被災地域の方の電話番号を市外局番からダイヤルして下さい 0XX XXX XXXX			
伝言ダイヤルセンタに接続します。					
④	メッセージの録音 メッセージの再生	[ガイダンス] 電話番号XXXXXXXX(暗証番号XXXX)の伝言を録音します。プッシュ式の電話機をご利用の方は数字の「1」をおして下さい。ダイヤル式の方はそのままお待ち下さい。なお、電話番号が誤りの場合、もう一度おかけ直してください。		[ガイダンス] 電話番号XXXXXXXXの伝言をお伝えします。プッシュ式の電話機をご利用の方は数字の「1」をおして下さい。ダイヤル式の方はそのままお待ち下さい。なお、電話番号が誤りの場合、もう一度おかけ直してください。	
		ダイヤル式電話機の場合	プッシュ式電話機の場合	ダイヤル式電話機の場合	プッシュ式電話機の場合
		(ガイダンスが流れるまでお待ちください)	1	(ガイダンスが流れるまでお待ちください)	1
		[ガイダンス] 伝言をお預かりします。ビップという音のあとに30秒以内でお話下さい。お話が終わりましたら電話をお切り下さい。	[ガイダンス] 伝言をお預かりします。ビップという音のあとに30秒以内でお話下さい。お話が終わりましたら数字の9を押してください。	[ガイダンス] 新しい伝言からお伝えします。	[ガイダンス] 新しい伝言からお伝えします。伝言を繰返すときは数字の8を、次の伝言に移る時は数字の9を押して下さい。
		伝言の録音		伝言の再生	
		(ガイダンスが流れるまでお待ちください)	録音終了後 9 [ガイダンス] 伝言を繰返します。訂正されるときは数字の8を押して下さい。再生が不要な方は9を押してください。 録音した伝言内容を確認する。	[ガイダンス] お伝えする伝言は以上です。電話をお切り下さい。	[ガイダンス] お伝えする伝言は以上です。伝言を追加し録音されるときは数字の3を押して下さい。 (ガイダンスが流れるまでお待ちください)
[ガイダンス] 伝言をお預かりしました。		[ガイダンス] 電話をお切り下さい。			
⑤	終了	自動で終話します。			

覚えてください、災害時の声の伝言板 **災害用伝言ダイヤル(171)**

資料3 警戒レベル（気象庁 HP）<https://www.jma.go.jp/>

気象庁では、対象となる現象や災害の内容によって以下のように6種類の特別警報、7種類の警報、16種類の注意報、4種類の早期注意情報（警報級の可能性）を発表しています。

特別警報	大雨（土砂災害、浸水害）、暴風、暴風雪、大雪、波浪、高潮
警報	大雨（土砂災害、浸水害）、洪水、暴風、暴風雪、大雪、波浪、高潮
注意報	大雨、洪水、強風、風雪、大雪、波浪、高潮、雷、融雪、濃霧、乾燥、なだれ、低温、霜、着氷、着雪
早期注意情報（警報級の可能性）	大雨、暴風（暴風雪）、大雪、波浪

特別警報 警報の発表基準をはるかに超える大雨や、大津波等が予想され、重大な災害の起こるおそれ
が著しく高まっている場合、「特別警報」を発表し、最大級の警戒を呼びかける。

緊急速報メール 携帯電話事業者（NTT ドコモ、KDDI・沖縄セルラー（au）、ソフトバンク）が無料で
提供するサービスで、国や地方公共団体による災害・避難情報等を、回線混雑の影響な
く、特定のエリア内の対応端末（スマートフォン・携帯電話）に一斉に配信するもので
す。

気象庁が発表する防災気象情報のうち、気象庁から「緊急速報メール」により配信するものは、次の
とおりである。（気象庁発表の全ての特別警報が緊急速報メールで配信される）

- ◇ 緊急地震速報（警報）
- ◇ 大津波警報・津波警報
- ◇ 気象等（大雨、暴風、高潮、波浪、暴風雪、大雪）に関する特別警報※
- ◇ 噴火に関する特別警報※

※対象市町村に初めて発表したときに関係するエリアに配信されます。

資料4 避難指示（内閣府 HP）

災害対策基本法 60 条に基づき市（区）町村長の判断で行われる。事実上「避難命令」と同等となる。

避難中の住民は、直ちに避難を完了する。また、避難していない住民は、直ちに避難を開始する。

もし避難する余裕がない場合、自宅や近隣の安全な場所へ逃げる。

（渋谷区）人的被害の発生する危険性が非常に高い状況です。直ちに避難してください（屋内の2階等に避難する垂直避難を含む）。

警戒レベル
4

ひなんしじ
避難指示で必ず避難
ひなんかんこく
避難勧告は廃止です

警戒レベル	新たな避難情報等	これまでの避難情報等
5	 災害発生 又は切迫 緊急安全確保 ※1	災害発生情報 (発生を確認したときに発令)
~~~~~<警戒レベル4までに必ず避難！>~~~~~		
4	 災害の おそれ高い <b>避難指示</b> ※2	•避難指示(緊急) •避難勧告
3	 災害の おそれあり <b>高齢者等避難</b> ※3	<b>避難準備・ 高齢者等避難開始</b>
2	 気象状況悪化 <b>大雨・洪水・高潮注意報</b> (気象庁)	<b>大雨・洪水・高潮注意報</b> (気象庁)
1	 今後気象状況 悪化のおそれ <b>早期注意情報</b> (気象庁)	<b>早期注意情報</b> (気象庁)

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令される情報ではありません。

※2 避難指示は、これまでの避難勧告のタイミングで発令されることになります。

※3 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

警戒レベル5は、  
すでに安全な避難ができず  
命が危険な状況です。  
**警戒レベル5緊急安全確保の  
発令を待ってはいけません！**

**避難勧告は廃止**されます。  
これからは、  
**警戒レベル4避難指示**で  
**危険な場所から全員避難**  
しましょう。

避難に時間のかかる  
**高齢者や障害のある人は、  
警戒レベル3高齢者等避難**で  
**危険な場所から避難**  
しましょう。

内閣府(防災担当)・消防庁

## 震度とゆれの状況

**0** **【震度0】**  
人は揺れを感じない。



**1** **【震度1】**  
屋内で静かにしている人の大半は、揺れをわずかに感じる人がいる。



**2** **【震度2】**  
屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。



**3** **【震度3】**  
屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。



**4** **【震度4】**  
●ほとんどの人が驚く。  
●電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。  
●座りの悪い置物が、倒れることがある。



**5弱** **【震度5弱】**  
●大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。  
●棚にある食器類や本が落ちることがある。  
●固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。



**5強** **【震度5強】**  
●物につかまらないうえに歩くことが難しい。  
●棚にある食器類や本で落ちるものが多い。  
●固定していない家具が倒れることがある。  
●補強されていないブロック塀が崩れることがある。



**6弱** **【震度6弱】**  
●立っていることが困難になる。  
●固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。  
●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。  
●耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。



**6強** **【震度6強】**  
●はわないと動くことができない。飛ばされることもある。  
●固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。  
●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。  
●大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。



**7** **【震度7】**  
●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。  
●耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。  
●耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。



この表は、ある震度が観測された時に、その周辺で発生するゆれなどの現象や被害の目安を示したものです。  
 詳しい解説は以下の気象庁ホームページに掲載しています。  
 気象庁震度階級関連解説表 <https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/shindo/kaisetsu.html>

### 震度はどうやって決めるの？

震度は、地震による揺れを感じし自動的に震度を計算する「震度計」という機器で観測しています。地震が発生すると、全国の震度計で観測された震度を自動的に収集し、気象庁では地震発生から約1分半後※に各地域の震度を速報でお知らせしています。

※震度3以上の場合



気象庁が発表する震度は、以前は気象庁の職員の体感や、まわりで発生した被害の様子などから決めていました。平成8年（1996年）に震度計で震度を観測する体制に移行し、より迅速に全国の震度をお知らせできるようになりました。



震度計

平成31年2月発行



気象庁  
Japan Meteorological Agency

〒100-8122 東京都千代田区大手町1-3-4 電話：(03)3212-8341(代表)  
 FAX：(03)6689-2917(耳の不自由な方向け)  
 ホームページアドレス <https://www.jma.go.jp/>

このリーフレットは、印刷用の紙へリサイクルできます。



## 操作フローチャート

「火事だ！！」と大きな声で周囲に知らせる

### 火災を発見

★火災を発見したら、焦らず、落ち着いて行動するように心がけましょう。



### 周りに知らせる

★隣近所の住人に、消火や通報の協力を求めることが重要です。



### 消火器を取りに行く

★運ぶ前に安全ピンを抜いてしまわないようにしましょう。



### 消火器を操作する

- ★消火器による消火限界の目安は、炎が天井に到達するまでです。
- ★危険と感じた場合は、直ちに安全な場所に避難し、消防隊の到着を待ちましょう。
- ★消火不能になった場合を考えて、逃げ口を背面にして消火します。



### 火元へ向けて放射※消火器を最後まで放射しましょう

- ★消火器による消火限界の目安は、炎が天井に到達するまでです。
- ★危険と感じた場合は、直ちに安全な場所に避難し、消防隊の到着を待ちましょう。
- ★消火不能になった場合を考えて、逃げ口を背面にして消火します。

2025年2月

看護学科防災対策ワーキンググループ

白柿綾・永易裕子・庄野亜矢子・山本直樹・武知浩二